

教育委員会会議の議事録（平成30年10月定例会）

- ◆ 日 時 平成30年10月26日（金）午後2時から午後3時25分まで
- ◆ 場 所 教育局第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	佐 々 木 洋	出席
委員・教育長職務代理者	吉 田 利 弘	出席
委 員	加 藤 道 代	欠席
委 員	花 輪 公 雄	出席
委 員	中 村 尚 子	出席
委 員	里 村 正 治	出席
委 員	阿子島 佳美	出席

◆ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 議事録承認
- 3 議事録署名委員の指名 中 村 委 員
- 4 報 告 事 項
(1) 史跡仙台城跡保存活用計画 中間案について

（文化財課長 報告）

資料にもとづき報告

花 輪 委 員 二つ感想を述べさせていただく。一つは、現在の基本計画と基本構想を策定してから10年以上経過しており、世の中の状況がどんどん変わってきている。具体的には海外からのインバウンドの人たちが多くなったという変化がある。そういった変化に対して、活用計画を見直した点がまとめて書いてあると非常にわかりやすい。

二つ目は、計画のロードマップが読んでもわからない。何を、いつまで、どうするのかという具体的なものが示されていない。事業をするには経費がかかるので、予算の裏付けがない状態で約束できないというのはわかるが、例えば、調査などは恒常的、定常的にやっていけると思うので、今後5年間でこのあたり、10年間でこのあたりの史跡の調査をして保存するということは言えると思う。そういうものが示されている

とわかりやすいと思う。

文化財課長 指摘いただいた世の中の状況の変化に対する対応のまとめについては、参考にさせていただきます検討する。

なお、調査の期間等の行程表については、保存活用計画の次に策定する整備基本計画で具体的な整備の手法や時期的なものの検討が加わるので、その中で検討していく。

吉田委員 私も改めて仙台城跡を見学させていただいた。以前行ったときよりも整備が進んでおり、仙台城見聞館の内容や大広間跡のあり方、観光的に見てもわかりやすいあり方を追求されてきたことが感じられた。私が考えるに、活用があつての保存と整備だと思う。活用と保存を併記することは、果たしてどうなのかと心配である。どういう活用のあり方に向けてどういう保存をしたのか、また、どういう整備をしているのかということを読み取っていかなければならないと思う。花輪委員からも出たようにインバウンド観光客に対する活用のあり方、学校教育と生涯学習における整備の仕方等に分けていくと思うが、特に生涯学習の視点からの整備の充実を深く考えていかなければならないと思う。120～121 ページで、いろいろな市民に対する活用のあり方を提案している。ここに出ている学校教育との連携で、小学校や中学校が実際授業の一環として仙台城跡を訪れている数字が書いてあるが、平成 28 年度は小学校 3 校、平成 29 年度は小学校 7 校とあるが、これは仙台市内の学校数なのか確認したい。例えばこれが仙台市内の学校数であれば、割合的には少ないように感じるがどうなのか。それらを踏まえて、学校教育に関するだけでなく、生涯学習はどうすればいいのかということ、考えていかなければならないと思う。

文化財課長 ここに上がっている小学校や中学校は、全て仙台市内の学校である。また、今後、パブリックコメント等でもいろいろ活用や、生涯学習の観点からの意見をいただけると思っているので十分に検討していく。

(2) 平成 29 年度仙台市におけるいじめ・不登校・暴力行為の状況について

～文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果
(速報値) より～

(教育相談課長 説明)

資料にもとづき報告

吉田委員 いじめの対応状況について、絶対的な評価、見方からすれば、昨年度より比率、数が減ってきているということで、教育委員会の皆さんの努力というのが功を奏しつつあるのだと思う。他の地域に比べればまだまだ数が多いが、そのまだまだ多いというところに、もう一度我々は視点を当てていかなければならない。先ほど小学校、中学校において、学年が上がるにつれだんだん減少していくという説明があつたが、裏返せば、学年が下がるほど多くなっている。種別を見ると、冷やかしやからかい、軽くぶつかる程度のものが低学年では多い。これは、発達段階上、当然起こり得るという解釈もできるが、そういうときにこそ手を差し伸べ、考えさせることを道徳の授業やほかの教科の授業、生活指導などを通して繰り返すことで、いじめの件数はもっともっと減らしていけるのではないかと思う。

中村委員 2 ページの「いじめ発見のきっかけ」のところ「学校の教職員以外からの情報により発見した」・「本人の訴え」という部分が昨年から大分増えている。今まで声を上げられなかった子供たちが、自分から先生に言えるように改善されてきているのだ

とすれば、それは非常にありがたい。また、「保護者の方からの訴え」という部分も増えているので、家庭でしっかりと話ができているということが資料から読み取れる。我々もいじめは駄目だと伝えるだけでなく、「どんだん声を上げよう」、「親にも話をしよう」という部分も強く訴えていくべきだと感じた。

花輪委員 「学校の教職員以外からの情報により発見した」の数字が増えているということは、声を上げられる状態になっていて、いい方向に向かっているのだと思う。同時に、その声を真摯に受けとめ、解決に向けた対応をしていくことが伴って初めていじめの解決に結びつくのだと思う。ここで受けとめられないと、先生に言っても無駄だったというような逆の効果を生んでしまうので、現場の先生方の対応に期待したい。

吉田委員 4ページの不登校に関して、不登校の子供たちに対する対応ということでは、仙台市では他の地域に先駆けて、不登校の子供たちを受け入れる機関の充実が積極的になされてきた。そういう意味で、事後対応はしっかりやってきたわけだが、もっと根本的なところから考えようということで、昨年从不登校対策検討委員会を立ち上げたと思うが、現在の進捗状況と検討委員会でのどのようなことがなされて、どのようなことが子供たちに返されているのか教えていただきたい。

教育相談課長 不登校対策検討委員会は、これまで数回の委員会を開催しており、現在、各学校にお願いしたアンケートの調査結果が集まったので分析作業を進めているところであるが、今回の調査で見えてきた点として不登校児童生徒は小中学校で増加しているが、小学校のほうが増加率は高い状況である。小学校における潜在的な状況が顕在化してくるのが中学校になってからだと考えているので、小学校の段階で未然防止のための手だてについて検討委員会の中で議論している状況である。

(3) 体罰・不適切な指導を行った教員の処分・措置等について

(教育人事部長 説明)

資料にもとづき報告

里村委員 特別研修は専門の講師にお願いするとあるが具体的に説明していただきたい。

もう一つは、この研修は継続していく考えがあるのかということと、研修が終わった後に、これからの自分の教育指導に当たっての考え方、決意表明を紙に書いて提出する等のフォローをどの辺まで実施する考えなのか説明していただきたい。

教育人事部長 1点目の専門の講師は、児童生徒理解とその教育を専門に教えている宮城教育大学の教授と、仙台市発達相談支援センターの所長を想定している。

研修の継続については、まずは体罰・不適切な指導をしてしまった教員向けに行うことにしているが、さらに広く継続的に実施し、浸透を図っていきたいと考えている。

今回の研修については、定着度の確認のために感想を書かせたり、研修受講してから一定期間経過後の振り返りなどを行う必要があると考えている。

吉田委員 前回の総合教育会議のときに申し上げたが、適切であるか、不適切であるかという一線を引く難しさがあり、非常に悩ましいことだと受けとめている。ただ、今回、改めて示された内容を読ませていただくと、言語道断というような指導内容があり、これは不適切だと受けとめざるを得ない。

研修に際して留意していただきたいのが、同じ指導にしても、その子供の性格や実態に合わせた声のかけ方をしなければならないが、第三者から見れば、それが異様に感じられることもあるので、現実を踏まえた研修のあり方を考えていただきたい。

資料を見ると、口頭厳重注意の教諭は不適切な指導を3回も繰り返している。ほかの例を見ても、何回か繰り返している教諭がいる。1回だけの教諭と、繰り返し行ってしまふ教諭との違いを踏まえた研修も必要だと思うので留意いただきたい。

教育人事部長 個々の教員に話を聞くと、すぐ力に訴えて押さえ込もうとしていると思われるものと、非常に苦勞を重ねて繰り返し指導を行ったにもかかわらず、聞いてもらえていないという悩みを抱え、最後に不適切な行動に出ってしまった教員もいる。そうした個々の子供たちの対応に応じた指導スキルを身につけるということが大切だと思うので、研修に組み込みたいと考えている。

(4) 市議会報告について

(総務課長 説明)

資料にもとづき報告

阿子島委員 情報活用能力について、タブレット等を使った効果的な授業は、情報機器の技術を適切に使うことを指導するのも大切であるが、自ら発信した言葉がほかに影響を与えるということ、特にSNSなど中高生になると頻繁に使われているので、それがいじめ問題のきっかけになる可能性もあるということも指導していただきたい。

学校教育部長 情報化が進展する中で、子供たちが情報機器を適切に扱うだけではなく、情報そのものをきちんと扱える情報活用能力をきちんと養っていくことが重要であり、その中で情報モラル教育という分野も非常に大切だと思っている。道徳の授業やさまざまな場面で、計画的、体系的に指導を行っていく。

吉田委員 35人以下学級について懸念しているのは、少子化の影響である。確かに人数が少なければ、指導の有効性は高くなるのだろうが、視点を変えて、子供たちにとってどうなのかという子供たちの育ちの観点での捉え方についても、2ページに「中学校における円滑な実施と検証を進めながら」と述べられているので、その点を踏まえた検証も行っていたいただきたい。

教育人事部参事 35人以下学級の効果については、現在、検証を進めているところであり、委員から指摘があったように、子供たちの受けとめ方も大事にしながら検証を進めていきたい。例えば、学級の人数が少なくなることによって、教室内で発言する機会がふえるとか、あるいは学校行事への影響ということも考えられるので、幅広く、さまざまな視点から検証を進めていく。

吉田委員 その視点の中に、子供同士の人間関係、子供の生活ということでどうなのかという点も加えていただきたい。

里村委員 議事録を見ると、3ページが一番下に35人以下学級といじめ抑止の関係の質問がある。やはり35人以下学級と子供たちへの影響を検証していくというアプローチが大事であって、直接的にいじめ抑止の効果があるという結論は出しにくいと思う。そうであれば、35人以下学級のいいところ、注意しなければいけないところ、それを先生と子供の立場からよく検証して、それで仙台市としては自信を持って進めていくことが必要ではないか。

この市長の答えも、35人以下であればいじめはなくなるということを経験して話していないが、我々としては、35人以下学級になったら、いじめの抑止力は増すのか、全くニュートラルなのか、判断できるように調査したほうがいい。

エアコンについて他県の話を少し聞いたが、どういうペースでエアコンを設置して

いくかということが最大の課題になっていると思う。設置して5年経つとメンテナンスの時期がやってくるので、それも頭に入れながら検討したほうがいい。仮に1年で全部設置すると、5年後に一斉にメンテナンスの時期が来て、対応が難しいようである。できるだけ早く設置するという中でも、メンテナンスを想定した上で計画的に導入していく必要があると思う。

教育人事部長 35人以下学級の効果については、教員の目が行き届くことによって子供たちの変化をより把握しやすくするというところで、それがいじめの発見などいい方向に行くということもある。また、人数規模が少なくなることによって、人間関係の構築という面でどうかという話も出てくると思う。確かに効果を見ていくのも大事であるが、どの部分に効果があるのか、あるいは、ある部分の効果は一定だが、ほかの部分でよりメリットがあるということも把握したうえで説明できなければいけない。さまざまな視点を検討に生かしていきたい。

副 教 育 長 エアコンについては、今般の議会においても設置のペースについてお話があり、概ね3,000の普通教室、費用にして100億円以上ということを経済の中で話し、現在もそれをベースにして検討を続けている。指摘のあったとおり、恐らく設置は数年間にわたるものになるかと思っている。したがってメンテナンスについても、その設置時期等もあわせて考えながら、年次が分かれるように計画的に進めていく。

阿 子 島 委 員 7ページの市民センターの今後の方向性について、市民センターではシニア世代が活躍していくことを期待しているが、さらに地域の子供たちや子育て中で孤立しそうな若い世代も上手に地域活動に巻き込んでいけるように働きかけていただきたい。

生涯学習部長 市民センターは、子供から高齢者の方まで、あらゆるステージに応じた学習支援をしているところであり、特に今いろいろな課題を抱えた若い人たち、子供たちの居場所が少なくなっているという状況に鑑み、世代間交流を促す取り組みに力を入れている。

中 村 委 員 教員の労働環境整備が7ページに出ている。ここが教職員の多忙化という部分につながってきていると思うが、学校の仕事は小さなことの積み重ねがとても多いと思う。それは対子供だけでなく、先生同士や外部とのやり取りもあるので、業務の仕分けや見直しを行い、しっかりと子供に目を向けられるような環境をつくっていくことが大切だと思うので、現場の先生に任せるのではなく、教育委員会からこれはやめよう、これは継続しようという方向性を出していただけるとありがたい。

教育人事部参事 教職員課が中心となり、多忙化解消のプロジェクト会議を開いている。そういった会議を通じて、横との連携も図りながら、削れる部分、学校の現場の先生方の業務の負担を減らす方策を検討している。

また、校長、教頭あるいは事務職員、養護教諭といった教員の代表者を集めての多忙化解消の懇談会も開いており、その中で学校現場の声を頂戴しながら、それをプロジェクト会議の検討の中にも生かしていくといった取り組みも進めているので、なお一層の負担軽減に向けて推進していく。

里 村 委 員 先生方は、自分の判断で今までやってきた仕事をやめるということにはできないと思うので、この多忙化解消は上席にある者が、この業務はやめていいというお墨つきをあげることがすごく大事だと思う。

もう一つ申し上げると、職員室が汚すぎる。これは企業の経営者から見ると、とんでもない話である。やはり仕事をスムーズにやるには、整理整頓が有効である。整理

整頓を子供たちにさせるのが先生の仕事だと思うが、職員室があれば、子供たちには指導できないと思う。そういう意味では、大変基礎的なことで失礼なことかもしれないが、多忙化解消のプロジェクトとして、整理整頓など基本的にわかりやすいアプローチと指揮命令系統、これをやらなくていいよというかなり別の世界のものを組み合わせさせてやることを提案したい。

教育人事部長 教育局内でプロジェクトをやっている狙いとしては、やはり大所を整理して学校におろしていかななくてはいけないという事は当然あり、それは局側でしっかり検討していこうと考えている。また、学校現場で業務を整理する中で、やらなくてもいいこと、他にもっと効率的にできることが見えてくると思う。そういったものは事例を広げる形で他の学校でも取り組めるような情報発信も必要だと思うので組み合わせながらやっていきたい。

教 育 長 今年度からは学校内の校務支援システムで情報を共有し、データベースを使うことを進めている。すぐに書類が減るかというのは非常に難しいが、そのような取り組みも進めているし、また、来年度から給食費の公会計化ということで、学校の先生方、給食費担当の先生方の仕事を減らす効果があると考えている。校務支援システムも給食費の公会計化も、導入後にどのくらい効果があった、何か課題があればそこをしっかりと検討して、また現場とやりとりしながら先生方の負担、もっと大事なほうにシフトをするということの取り組みは、教職員課を中心に引き続きやっていきたい。

5 付 議 事 項

第 23 号議案 仙台市学校給食運営審議会委員の委嘱等について

(健康教育課長 説明)

原案のとおり決定

第 24 号議案 仙台市スポーツ推進審議会委員の委嘱に係る市長への意見の申出について

(文化スポーツ部長 説明)

原案のとおり決定

6 閉 会